



障害をもつ幼児の保育(13)

—この子と出会ったとき—

津 守

真 (M)

津 守

房 江 (F)

手を使うこと・遊び、描き、造る

手が使えらようになることは、生活が便利になるだけ

がつていきます。

ではありません。手は心に感得している混沌とした自分

自身の思いを、外に表す働きをするのではないかと気付

きます。子どもたちは手を使う遊びを通して自分の思い

を表現出来、それによって大人に分かってもらうことを

知り、やがてものを描いたり造ったりする造形へと広

本気で遊ぶ幼い子

F 今日遊びに来た一歳五カ月の孫をあなたは随分長い時間、ノートをそばにおいて見ていたけれど、その時の感想を聞かせて下さい。

M 車の大好きなこの子は、長い時間座りこんで車の広

告を切り抜いてもらっていました。それを一つずつ手にとつてながめていたのです。前にも話したように、手にもつことによつてそのものは自分に属するものとなり、手にもつことによつて心の中で動きはじめます。自動車を一一つ手に持つて動かすとき子どもの心にはさまざまな光景が行き来しているのではないでしょうか。前に造つてもらった段ボール箱の車を引きずつて来しました。それは母親が造つたもので、子どもが自分でマジックペンでぐるぐるとかいてある。我ながらよくできたと言うように鑑賞して車に乗つてワッフルを食べ、それから手を大きく動かして車にマジックペンでまたいろいろな線を描きました。

F それはノートにも書かれた記録だけだ……。

M 書かれたこと以上に、その情景が目に浮かぶんだよ。

F そう、あの熱気ね。

M 全身で描いていて、手はそのエネルギーが凝縮して先端からほとばしるように見えましたよ。

私は字で書いたけど、幼い子が全身で描いている姿を文字では伝え切れなと思いました。だから、幼い子や言葉のない子は本気で遊ぶ事が大事な表現になるのでしょう。

子どもの遊びの中にアートがある

M 大きな段ボール箱は安定もよくマジックペンとよく合うようですね。

F 愛育養護学校でもいろいろな材料を出しているようですが……。

M お天気の日に庭に絵の具の道具を出したり、特別な紙を出したり、粘土の場を造ったり、工夫をしています。描くものもクレヨンやマジックペンやサインペンなどその子の好みや手の力にもよるでしょう。

子どもたちの手で造りたい気持ちを引き出すように、

心を使いながら場所を用意し、材料を用意する。そんな先生がいて、子どもたちは遊びとアートの両方に跨がったような所を生きることになるのでしょうか。

子どもの心の内側にあるまだ形をなさない茫漠としたものが、いろいろな素材に出会って共鳴し、うごきだすような感じがする。形になりにくいけれども心の思いを表現しやすい水とか土とかにずーっと引かれる子もいる。そのことはどの子も共通するものがあると言えますね。

F 本当にそうですね。

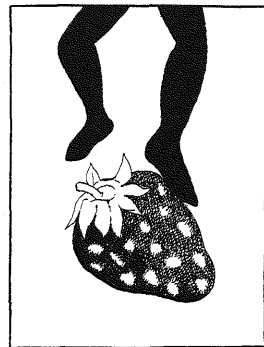
水たまりにどうしてもはいりたかったり、水たまりに映る青い空や、自分の顔に見とれたり、子どもが心を引かれるものは形にならなくても、アートの心があるのだと私も考えてきました。

M 子どものときから本気で遊ぶ生活がどの子にとっても大事ですね。

心の枠をはずすこと

F 子どもによっては自分を縛る枠を強くもっている子もありますが、それをどのように考えたらいいのでしょうか。

M 子どもを縛る枠には、自分自身のなかにあるものと、外側から子どもに向けてこうであって欲しいという親や先生などからの眼差しがあります。外の枠が強いと内の枠も強くなって子どもが自信がもてなくなって、自己表現が出来なくなる。手を使って描いたりものを造る



事も難しいでしょう。まず、自分に自信をもつようになることが大事かと思う。

F そういえば、来たてのころクレヨンを折ったり砂に埋めたりして手を使うことを拒否する子がいて驚きました。大人から期待されてもどうせばくには出来ないよとあきらめている子どもの訴えかと思いました。『やらな』ということをやっている』とあなたに言われたことは、子どもを理解するうえで大切なことを学びました。やらされると感じたとき拒否する力があるのは一つの成長のステップと考えられますね。

M 命令や指示で子どもを動かすのではなく、この人といれば安心だという大人に対する信頼感や、この場合はほっと出来るというリラクセスした気持ちの中で、周囲にいる大人や子どもが「なにかやっている」おもしろそうだというわくわくした気持ちになるのでしょうか。

形に成らないものをもっと大切にしたいですね。長い年月かかってあのころなんだか分からないけれどやって

いたことが、こういう意味があったのかと発見することがしばしばあります。

たとえば、一人の男の子は、幼児期に箱が大好きで職員室や教材室から集めたり、ゴミ集積所から取って来たり、母親も保育者も本当に困りました。後にその子は自分で蓋付きの美しい箱を作るようになりました。また小学生のころ、ビニールのストローで輪っかを造って遊んでいた男の子も今は青年となつて、紙粘土の円盤にいろいろのビニールを埋めこんで次々と造っています。作品は同じように見えるけれど少しずつ変化しているのです。繊細でちよつと臆病なこの人の変化の仕方を、作品の中から私たちは感じ取っています。

F そう、その時にはもう青年期に成っていますが、青年となった人達の造形は興味深いものがありますね。

小さな造形教室を開く

M 青年となった人たちが、集まって描いたり造ったり

する場が出来たらいいと思い始めたのはそれぞれに大人となつて作業所に通いだしたころだったかしら。

F 高等部に通つたり、作業所に行き始めたところかと思ひます。もう愛育は卒業して大人として働くけれど生活のすべてが働くことになつてしまうのでは寂しい気がする、とお母さんたちが考えたし、みんなも考えていました。

心の枠を取り払う時が必要なのは青年となつて働き始めても同じです。

M いや、もっと必要かも知れない。生活の広がりや楽しみを用意するのは、この人たちだけでは出来にくい。

愛育養護学校で美術（アート）を担当していたうちの娘が中心になつてやることになりました。さきに話した孫の母親です。

F ちょうどそのころ、うちでは子どもたちが独立して家を出て行くころでした。割に広い子ども部屋が空いたのでそこを使って、と簡単に決めてしまいましたが、そ

れから十年も続くとは思つてもいませんでしたよ。月一回ですがみんなの興味をひくような材料を用意し、場をもり立ててくれる人がいたから出来たのです。

この年齢になると描いたり造つたりが好きな人が、一人ではなく集まつてやるのがとても楽しいようです。教える人ではなく一緒にやる人がいてくれるのです。十二、三人くらい集まりますが、障碍のある人は数人です。